特集 ふるさと環境フェア２０１６

当協議会では、展示や体験を通じて、県民に福井の環境を守り育てることの大切さを考えてもらう機会を提供するため、企業・団体の皆様の協力を得て、ふるさと環境フェア（以下「環境フェア」という）を、平成21年度から開催しています。7回目となる今回は、平成28年11月23日（水・祝）に福井県産業会館において、「未来へつなげるふくいの環（わ）木から学ぶ～こどもたちのために今できること～」をテーマに開催し、当日は延べ約1万人の方に来場いただきました。

●テーマに込めた思い

森から湧き出た水は川となり、里や街を潤しながら、海へと流れ込みます。そして、海の水は蒸発し、雨へとなって再び森へと降り注ぎます。この水の循環とともに、動物や植物の成長を育む多様な物質がめぐり、食べ物や空気などといった様々な自然の恵みが生み出されています。

私たちは、福井という土地に生きる中で、このいわば「命の循環」ともいうべき環の中で、自然とうまく付き合い（＝共生）ながら豊かな恵みを享受してきました。

しかし、明治以後、特に高度経済成長期にかけて、人々は自分の都合により、この自然を開発・調整してきました。この急速な変化により、今、自然はバランスを崩し、大きな危機を迎えており、特に近年は、温暖化といった気候変動による影響も大きく注目されています。

将来世代にわたって持続的に自然の恵みを得ていくため、今、私たちに何ができるのか、これを真剣に考えていくことが大切です。

環境フェア２０１６では、このことを考えるきっかけとしてもらうため、自然の恵みを生み出す連環の起点であり、一番身近な自然である「木」に焦点を当て、「木から学ぶ～こどもたちのために今できること～」というテーマにしました。

●ふるさと環境フェア２０１６の開催内容

①木育キャラバン

環境フェア２０１６では、テーマに合わせて、東京おもちゃ美術館から木育キャラバンを誘致しました。木育キャラバンでは、３００を超える木のおもちゃで遊びながら、木のぬくもりやその良さを確認し、木を適切に使っていくことが環境保全につながることを学んでもらいました。

木育キャラバン

②メインステージイベント

会場メインステージでは、多くのイベントを行いました。ここでは、そのいくつかについて紹介します。

(ア) おいしく食べきろう！ おいしい外来種料理

来場者約90名に、「ブラックバスのピカタ」と「ウチダザリガニのクリームスープ」という外来種を使った料理をふるまい、皆で食べきるイベントを行いました。ブラックバスとウチダザリガニは食用目的として海外から持ち込まれましたが、逃げたり捨てられてしまったりしたことで全国に広まった外来種です。今回は、食用という本来の目的どおり、おいしく食べきることを通じて、食品ロス問題と外来種問題を考えてもらいました。

おいしく食べきろう！
おいしい外来種料理

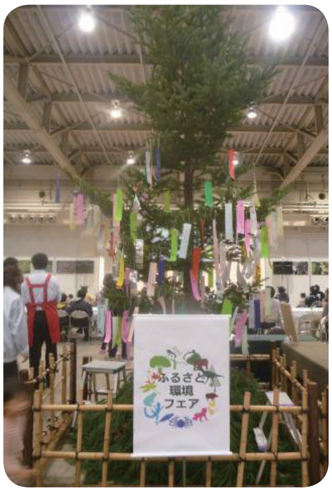
（イ）気象予報士による温暖化講座

地球温暖化が深刻化している中、幼少期から温暖化の仕組みや影響について学んでおくことが、今後の温暖化対策に向けた取組みを行っていく上で重要となります。このため、本県出身の気象予報士の河波貴大さんに、小さい子どもたちにもわかりやすい内容でご講演いただきました。

（ウ）クロージングイベント

環境フェア２０１６を締めくくるイベントとして、本県出身アーティストのせりかなさんに、ふるさと福井の環境などをテーマとしたミニライブを行ってもらいました。

ライブ終了後は、会場の子どもたちと一緒に、会場中央に設置したシンボルツリーに地球への想いを込めた短冊を吊るしていただき、皆さんの想いを確かな形として残すことができました。



会場中央に設置した
シンボルツリー

③ 各体験ブース

環境フェア２０１６では、テーマに沿って、合計49の体験・展示ブースを設け、来場者に楽しみながら学んでいただきました。ここでは、そのブースの内容についていくつか紹介します。

（ア）木や自然の恩恵・つながりを体感するゾーン

このゾーンでは、特に、県産材の杉で作ったミニ椅子作りや、木を使ったクラフト体験が非常に子どもたちに人気でした。これらの体験を通じて、木を大切に思う気持ちを育んでもらうことができました。

また、福井の川や海の生き物を水槽等で展示したコーナーでは子どもたちの歓声が飛び交っていました。自分たちの周囲の自然の中に生息している生き物を知ることは、環境問題は自分にも影響があることと認識してもらうための第一歩であり、子どもたちにとって非常によい体験になりました。

（イ）こどもたちの未来のため、今できることを考えるゾーン

ここでは、地球環境の現状や資源の大切さなどを伝え、それを守っていくための取組みについて紹介しました。

例えば、手回し発電機により実際に発電し、その電気を使うという体験を通じて電気のありがたみを実感してもらうとともに、環境に優しい再生可能エネルギーに関する県内の取組みについて学んでもらいました。

また、屋外展示場では県内各社のエコカーが勢揃いし、多くの来場者に最新のエコカーを知ってもらいました。中でも水素で走る燃料電池自動車（ＭＩＲＡＩの試乗やＣＬＡＲＩＴＹ　ＦＵＥＬ　ＣＥＬＬの展示）は関心も高く、注目を浴びていました。

燃料電池自動車の展示

●これからの環境フェアが目指すもの

現在、地球環境の変化は年々加速し、特に温暖化による気候変動は危機的状態と報告されています。これまで以上に環境保全に対する意識向上が求められており、環境フェアのような、多くの県民が環境について学び、考えるイベントの重要性は増しているといえます。

このため、当協議会ではこの環境フェアについて今後も継続開催していくとともに、環境保全の意義をしっかりと伝えることのできるフェアとしていきたいと考えています。